

平成24年度の鳥取県立博物館

1 総 論

当館は今年、昭和47年の開館から40年の記念の年を迎えることとなった。

これまでの長年の取組で培ったノウハウを活かしながら、今年度においても貴重な資料の収集や保存、展示、館内外での様々な普及活動など、本県の学びの拠点としての活動に努めた。

毎年多くの県民に鑑賞いただいている企画展は、平成20年度から年間5本開催しているところであり、平成24年度においても、人文・自然・美術の各分野毎に年間を通じて実施した。

このうち、夏休み期間を挟んで開催した自然分野の「大きなこ展」は、開館40周年事業として企画したものであり、目標を大きく上回る約2万人の方が鑑賞された。

また、4月に開催した「柳宗悦展」も美術展としては異例の8千人の方が鑑賞されるなど、企画展入館者の大幅増に繋がった。

開館40周年を記念した取組として、2月には「博物館の未来を考える」を主題に、元文化庁長官の林田英樹氏の基調講演やシンポジウムを行い、参加された約100名の県民とともに今後の博物館のあり方について意見交換を行った。

このほか、国際交流の取組においては、10月に山内館長はじめ当館職員がロシア沿海地方で開かれた会議に出席し、アルセイニエフ沿海地方国立博物館等との意見交換を行ったほか、11月には職員との相互派遣の合意書を平成23年度に取り交わしている国立春川博物館から崔（チェ）新館長が来館され、今後の両館の交流について協議を行った。

山陰海岸ジオパークの拠点施設として期待される山陰海岸学習館では、野外観察会や天体観望会などの普及活動をはじめ、周辺環境の特性を活かした取組に一層努めるとともに、新たに山陰海岸ジオパークの魅力を発信するための3D映像を製作し、1月から一般公開している。

(1) 組織

昨年度に引き続き、緊急雇用創出事業（商工労働部所管）として、博物館資料の整理や電子化等を進める作業を補助する非常勤職員を4名雇用した。

(2) 資料の収集・調査研究

自然部門では鳥取県産を中心とした貴重なコケ類や植物の標本の寄贈を受けた。これらの標本や鳥取県の生物相に関する調査研究を実施し、その成果を当館の研究報告や学会誌などに論文として発表した。

人文部門では、近世・近現代の鳥取県に関係する古文書や民俗資料等の寄贈を受けた。また、鳥取県の歴史・民俗事象調査事業では「神社の棟札」の調査を行い、その成果の一部を講演会で報告した（棟札調査は次年度も継続）。

美術部門では、企画展に関する調査を行うとともに、鳥取県の美術に関する調査を継続して行い、沖一峨「四季草花図」や菅楯彦「謙信殺到川中島」、湯村光「響き合うかたち」などを新たに収集した。

(3) 展示

企画展5回（自然分野1回、人文分野1回、美術分野3回）を開催し、博物館全体（山陰海岸学習館を含む。）の事業に10万人を越す来館者があった。

〈企画展の概要〉

自然分野：鳥取県には、日本で唯一のきのこ専門研究機関「財団法人日本きのこセンター菌茸研究所」があるなど、じつは本県は「きのこ王国」である。このことを広く紹介することと、「きのこ」とはどんな生きものなのか、その多様性や生態系での働きなどを紹介するために、多彩な資料を用いて開催した。

人文分野：全国で毎年7,000件以上行われている発掘調査の中から、近年特に注目を集めた各地の貴重な出土品20遺跡約570点を一堂に展示した。また、地域展「鳥取の遺跡発掘クロニクル」を同時開催し、県内の主要な遺跡の出土品など約550点を展示した。

美術分野：今年度は鳥取とも深い関係をもつオルガナイザーと画家の、奇しくもともに没後50周年を冠した二つの展覧会を企画した。民藝運動の創始者である柳宗悦と日本民藝館の活動を紹介する「柳宗悦—暮らしへの眼差し」と洋画家須田国太郎の画業の全貌を紹介する「須田国太郎展—没後50年に顧みる」である。また恒例の「シリーズ鳥取の表現者」では抽象表現の可能性を追求するフナイタケヒコの多彩な作品を紹介した。

山陰海岸学習館では、山陰海岸ジオパークの拠点施設としてリニューアルオープンして以降、展示解説・体験コーナーを担当する非常勤専門員を増員し、急増した来館者や小中学校の団体利用に対応するとともに、野外観察会等の主催講座の充実にも取り組んだ。

(4) 教育普及

普及領域では、県民の生涯学習を支援するため、巡回展・移動博物館・出張美術教室などのアウトリーチ事業のほか、館内外で講演会・観察会・各種講座・ワークショップなどを開催した。

巡回展・移動博物館・出張美術教室は、県下16会場で実施し延べ4,727人が参加した。また、普及講座や講演会は、年間を通して126回開催し延べ3,678人の参加があった。

中でも美術分野の普及講座は、「毎週土曜日はアートの日！」として、毎週土曜日に美術に関する事業を実施し、県民がアートにふれあう機会を充実させた。また、普及講座において、自然・人文・美術・山陰海岸学習館の各担当の講座をコラボレートした、コラボ企画も定着してきた。

広報領域では、対象年代や広報手段について検討を行い、より効果的な広報を実施すると共に、教職員に対する広報の一環として、県内の小中高等学校及び特別支援学校の全教職員に対し、ニュースレター「鳥取県立博物館ニュース」を配布した。

(5) 来館者サービス

平成21年度から継続して、開館時間を次のとおり延長し、来館の機会を広げた。

〔 4月1日～10月31日の特別展示の期間中の土曜日、日曜日及び国民の祝日 〕
〔 に関する法律に規定する休日は午前9時～午後7時 〕

受付付近にトイレ・常設展示室入口への案内表示を増やし、来館者にとって分かりやすい表示を行っている。

2 各課の概況

(1) 総務課

- ・ 1階歴史民俗常設展示室の展示ケースのうち、破損したガラス1枚を交換
- ・ 2階第1展示室の展示ケースにあるガラス引戸用金物（コマレール）の交換
- ・ 2階第2展示室の壁クロスの貼替え

(2) 学芸課

●自然担当

- ・ 企画展「開館40周年 大きのこ展」
- ・ 田中昭彦植物標本整理事業（5か年）1年目
- ・ 三島寿雄昆虫標本整理事業（3か年）1年目
- ・ ダイオウイカ展示水槽の交換

●人文担当

- ・ 企画展「発掘された日本列島2012」・地域展「鳥取の遺跡発掘クロニクル」
- ・ 歴史・民俗常設展示室改善充実事業（因幡国智土師郷上村年貢結解状1通・朱印船貿易荷物覚書

1 通のレプリカ製作)

- ・鳥取県の歴史民俗事象調査事業（鳥取県内の神社の棟札調査）
- ・藩政資料整備事業（14か年）8年目
- ・収蔵資料保存・修復事業（保存処理2件：宇倍神社経塚出土金字経・経筒と、古郡家1号墳出土資料のうち、ハツ手葉形青銅製品1点、鉄剣4点、修復2件：木造船2艘、刀剣研磨（赤羽刀7口））
- ・「鳥取藩政資料」解説・研究事業（6か年）1年目

●普及担当

- ・学校教育支援事業の開催
- ・学校・市町村・教育機関と連携した普及事業の推進
- ・移動博物館、移動美術館、学芸員派遣等の募集及び調整
- ・各種広報活動の立案及び実施
- ・公式ホームページの管理運用
- ・収蔵資料データベースサーバーの管理運用
- ・ニュースレター「MUSEUM PRESS 鳥取県立博物館ニュース」No. 14、15の発行
- ・リーフレット「2013. 4－2014. 3 展覧会・イベントのご案内」の発行

●山陰海岸学習館

- ・展示解説等の来館者対応や小中学校等の団体利用の充実
- ・山陰海岸ジオパークの魅力を学ぶ野外観察会および自然講座の開催・充実
- ・山陰海岸ジオパークの魅力を伝える3D映像「大地と海の物語」の製作および上映

(3) 美術振興課

- ・今年度は鳥取と関係の深いオルガナイザーや画家、現代美術家の仕事を紹介する3本の企画展を開催した。まず春には民藝運動の創始者、柳宗悦が収集した古今東西の手仕事を紹介する「柳宗悦一暮らしへの眼差し」を開催し、山陰の民藝運動を紹介するコーナーも設けた。また秋の「須田国太郎展―没後50年に顧みる」では、鳥取にもしばしば足を運んで、作品を制作し、指導にあたった須田国太郎の画業を紹介した。これらはいずれも巡回展であったが、鳥取会場ならではの独自性を加味した展覧会となった。また2月の「シリーズ鳥取の表現者 フナイタケヒコ 絵画の光景」では、鳥取で抽象表現を追求し、多様な作風の展開をみせるフナイタケヒコの作品を5つのセクションに分けて紹介した。
- ・2階近代美術展示室では、「新 収蔵&修復 2007－2011」、夏休み企画「なりきりあーと展 演じてみよう 額縁の中の物語」、「生誕100年 福留章太展」、「写真表現の先駆者たち 塩谷定好・植田正治・岩宮武二・杵島隆」の4本のテーマ展示を開催した。
- ・1階美術展示室では、展示室を4つの区画に分けて、鳥取県を代表する江戸時代から現代までの作品を年間を通して紹介する「コレクション展Ⅰ～Ⅴ」を開催した。
- ・年間を通じて毎週土曜日に美術普及活動を展開する「毎週土曜日はアートの日！」を本年度も実施し、ワークショップ、アートセミナー、アートシアター、ギャラリートーク、企画展関連事業等を通して、美術に関する教育普及に努めた。
- ・平成24年度に開催された「まんが王国とっとり」の推進を支援するため、「まんが王国とっとり」建国YEAR記念事業として、漫画家・エッセイストの夏目房之介氏による特別講演会や、関西在住の四コママンガユニット「ばうみみ」（3人組）による四コママンガ・ワークショップなどを開催した。いずれも多く参加者があり、好評を得た。